

## ASC2012 参加報告

私は北京経由でウランバートルへ行ったので、16日の北京からの飛行機では、中国地震局地球物理研究所の呉忠良 (Wu Zhonaliang) 所長やほか旧知の沢山の中国人研究者達に会ったほか、ニュージーランドの Dr. David Rhoades と一緒に became。

飛行機を降りると空港では LOC の迎えがあり、委員長である Dr. Demberel も来ていた。到着した大勢の参加者はバスに乗ったが、Dr. Demberel は何故か中国地震局の李保昆さんとイランの人と私の3人だけ別の車でホテルへ連れて行ってくれた。

ASC 研修の会場は、パレスホテルの9階で前日から2日間の日程で行われており、7か国から15人参加していた。内訳はモンゴルからの参加が一番多く7人で、あと、イラン、インド、パキスタン、タイ、ヨルダン、ベトナムからで、タイの Naguit Muriel さんは2010年ベトナムでの研修に続いての参加でした。彼女は、「ソフトは前と同じですか?」というので、「バージョンアップされている」と答えておいた。日本からも1人参加予定であったが、残念ながら取りやめていた。講師は、イタリアの Romanelli Fabio さんが「Tsunami hazard assessment: lessons from the Tohoku earthquake」と「Scenario based approach to Seismic Hazard Assessment」を講義したほか、ロシアの Krill Levi さん、フランスの Antoine Schlupp が講師をし、私が半日で Seis-PC の講義と実習を行った。前回のベトナムのときも日本からの講師は私だけであったので、今回は別の人に期待しています。

私の研修は Seis-PC の実習なので、全員に WindowsPC を用意して貰っていた。最新版のソフトとデータのインストールから始めようと USB を2個用意していたが、モンゴルの研修生たちはすでに FTP サイトからダウンロードしていて、既にインストールしている (使っている人もいた!)、というので少し混乱した。

各国の研修生が帰国後にも自分で使えるようにと、インストールから始めた。しかし、何故か数人の PC で起動出来なかった。これまで建築研や名古屋大学での研修で同じように実習を行ってきたが、時間がかかっても全員で実習できるようにしてきた。しかし、回は半日しか時間が無いので、起動しない人に

は隣の人々の PC で一緒に見て貰った。その後、ほとんどの機能について解説し、各人自身でも使ってみて貰った。研修生各国の詳細地図データや世界の最新震源カタログやメカニズム解も用意していたので、ベトナムの研修生は、自分の PC ではインストール出来なかったにもかかわらず、このソフトは大変役に立つ、と喜んでいました。

大会が始まってから会ったインドの Uma Ghosh さんは、「2年前に講習を受けて、あなたのソフトは大変役に立っている」と言ってくれた。私にとっては、大変うれしいことであった。

ASC 大会では、「Abnormal locations of some hypocenters in JMA and the Centennial catalogs」と題する口頭発表を行った。この中で JMA カタログのほか台湾の震源カタログにも一部不備があることを指摘したので、台湾地球科学研究所の陳國誠さんが、私の発表の後に質問してきた。彼は、台湾中央気象台の震源カタログの問題点は認識していたと言い、今後協力してほしいと頼まれた。

今回の ASC2012 参加にあたり、日本地震学会 ASC 基金による助成を受けました。関係者に感謝いたします。